

## 電子メールを利用した学生の達成度評価システムの開発

知能生産システム工学科 森 和也  
技術部 大嶋 勝成

### 1. 緒言

学生を講義に集中させることも、最近に必要な課題となってきた。その一つの方法として、今回、表題のシステムを開発した。このシステムの意図するところは、解答の提出と評価ならびに表示を即時に行うことによって、緊張感を高めることにある。

本システムを実際に講義に用いたので、その効果について紹介する。また、就職業務にも適用を試みたので、その結果についても言及する。

### 2. 実施概要

**2.1 システムの概要** システムの概要を図1に示す。①解答を携帯電話で提出させて、②サーバーでメールを処理する、③無線LANを用いて、集計結果を読み取り、④正解率等を算出し、⑤結果をプロジェクターで投影する。本システムでは、差出人のメールアドレスを用いて本人確認を行っている。

**2.2 講義への実施概要** 最近では、メールでアンケートを行うことはよくある。講義に用いられることも見受けられるようになった。そこで、このようなシステムを講義に利用するに当たってのメリットとデメリットを紹介する。今回は、代表者担当の「材料力学」の講義に用いた。

<メリット>

- ・その場で、学生の理解度が把握できる。
- ・全員を授業に参加させることができる。

<デメリット>

- ・予想より送信に時間がかかる。
- ・解答の形式を指定しても、多様な形式で解答が送ら

れる。

以上の点から、今後の課題として、結果を簡単かつ短時間に送信できる方法と多様な解答形式を処理できるシステムの開発が必要であることがわかった。

**2.3 就職業務への実施概要** 機械系の就職希望調査は、従来、一人一人面談で行い、求人数を超えて重複した場合には調整を行っていた。しかしながらこの方法では、求人数を超えた重複が多く発生し、調整作業に時間を要していた。

今回、本システムを用いて、面談の前に学生全員の希望調査を行い、全体の希望動向を公開した。希望の変更はいつでも可能とし、毎日、その変化を公開した。その結果、求人数の枠を超えた希望の重複はほとんど起きず、スムーズに調整を行うことができた。



図2 解答の送信

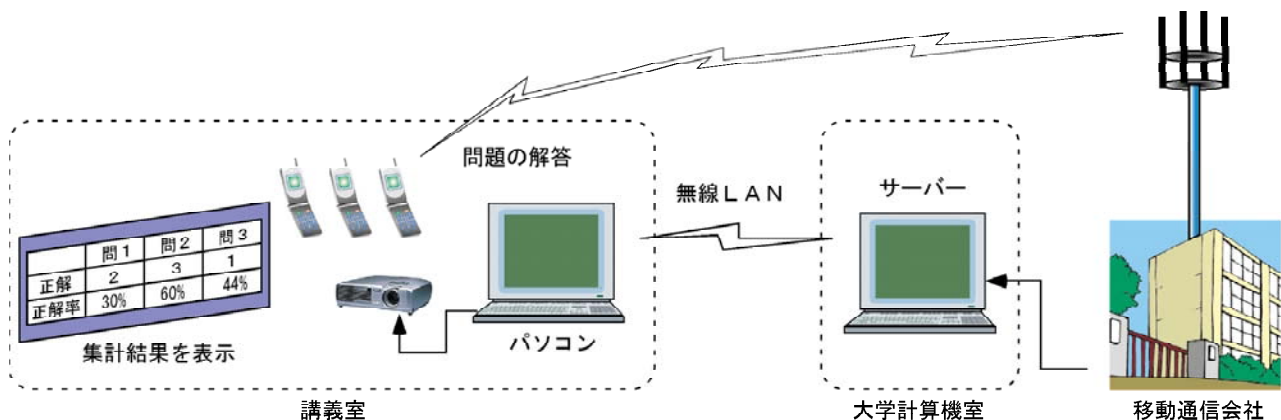


図1 システムの概要